

平成 2 7 年 度

地域政策科学研究科 (後期)

一 般 入 試

専 門 科 目

時 間 9 0 分

(午前10:00~11:30)

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 問題冊子は、この表紙を除いて 1 枚、解答用紙は 1 枚です。
印刷不鮮明の箇所などがあれば、監督者に申し出て下さい。
3. 解答用紙の指定欄に科目名と受験番号を必ず記入して下さい。
4. 解答は、別紙の解答用紙に横書きで記入して下さい。
5. 試験終了の合図とともに、ただちに、筆記用具を机の上に置いて下さい。
6. 解答用紙は持ち帰らないで下さい。

平成 27 年度 (後期)

(一般入試)

民法 (家族法)

次の設例を読んで、以下の問に答えなさい。

【設例】

A (男) と B (女) とは、大学で同じゼミに所属していたが、Bは一浪したためにAより一歳年長であった。AとBとは交際を深め、ついに大学の近くのアパートで同棲を始めた。その結果、Bは妊娠したが、中絶するのをためらい、BはAに婚姻を迫った。生まれてくる子が非嫡出子になることを恐れたAは、Bとの婚姻に同意し、婚姻届を提出した。しかし結婚式も新婚旅行もしなかった。Bは無事に女子Cを出産した。Aは民間企業に就職したが、Bはほとんど就活ができず、就職の意思はあるものの、事実上専業主婦となった。

それから3年が経過した。Aの勤めている会社に大学の後輩である女子Dが入社した。AはDに一目惚れし、AとDとの交際が始まった。当初は一緒に飲みに行く程度であったが、そのうちに新婚気取りでハワイへ旅行した。それとは反対に、AとBとの関係は冷却していった。そのうちにAはDと同棲を開始し、Dは妊娠し、男子Eを出生した。Eの養育費がかかることもあって、AはBに生活費を渡さなくなった。その頃、BはAに愛人Dがいること、およびA・D間に男子Eがいることを知った。

問1 AはBとの離婚を考えている。しかしBは離婚に応ずる気はまったくない。Aの離婚請求は認められるか。

問2 BおよびCは、Dに対して慰謝料請求をすることができるか。